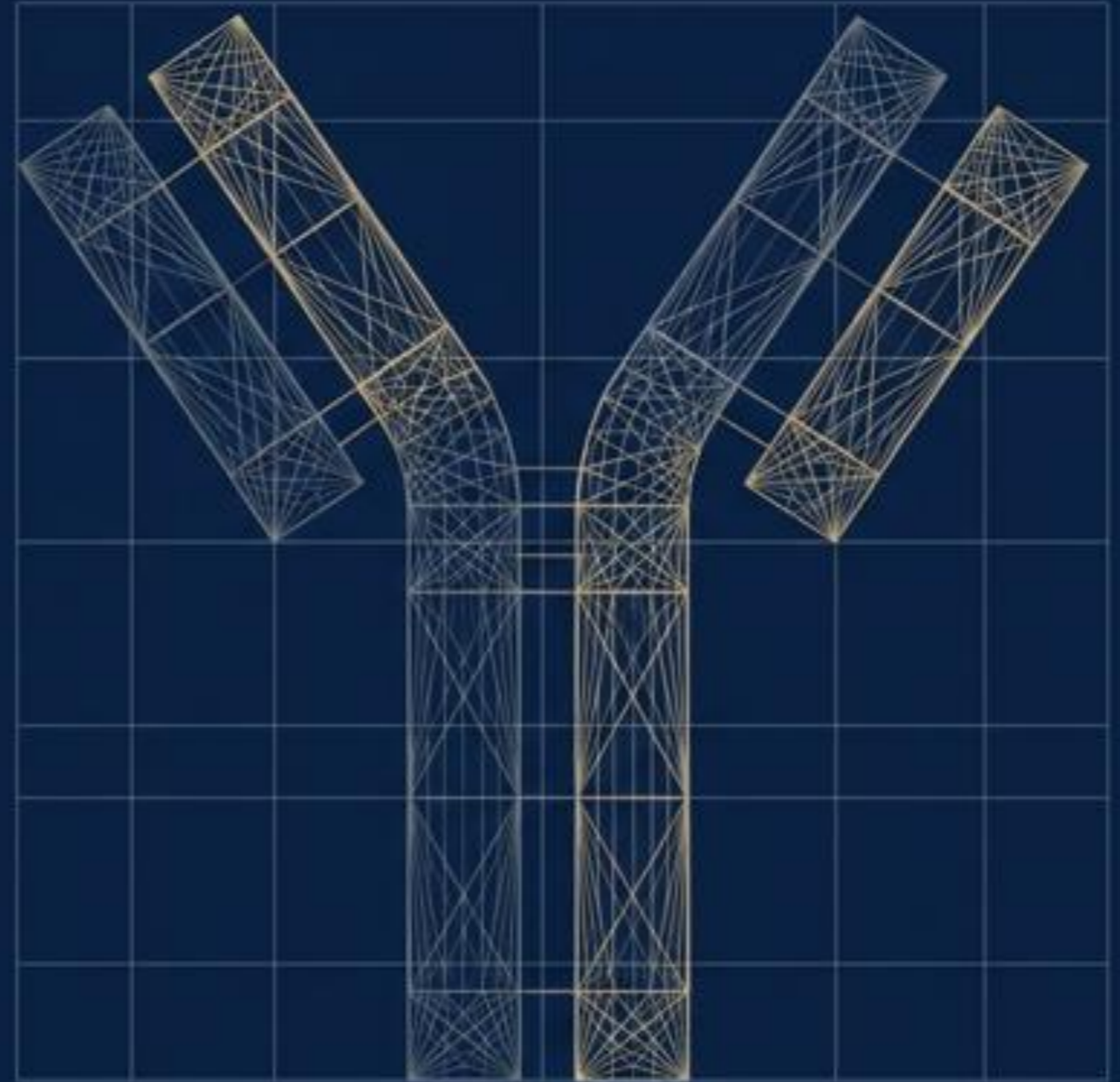


2026年3月期 決算説明会資料

株式会社ペルセウスプロテオミクス

2026年5月18日

代表取締役社長 横川 拓哉



世界の「生きる」に 届く技術を。

ペルセウスプロテオミクスは、病に苦しむ世界中の人々のために、独自の抗体技術を駆使して新しい抗体医薬品の創薬を目指すバイオベンチャーです。

企業理念

最先端の抗体技術で世界の医療に貢献する

目次

- 01** **2026年3月期：計画と実績**
- 02** **2026年3月期：決算概況**
- 03** **2027年3月期：計画**
- 04** **今後の成長戦略**
- 補足** **ペルセウスプロテオミクスについて**

01 2026年3月期：計画と実績

2026年3月期：計画と実績

計 画

1

導出活動：

PPMX-T003 / PPMX-T002

2

臨床開発：

PPMX-T003のアグレッシブNK細胞白血病の
医師主導治験は2026年3月に終了

3

探索研究：

PPMX-T004の予備毒性試験で薬効と毒性
のバランスを最適化、非GLP毒性試験の開始

4

基盤技術①PPMX抗体ライブラリ2：

パイプライン化・プラットフォームビジネス 展開

基盤技術②高効率シングルBセル^oプラットフォーム技術：
要素技術の連結・検証

実 績

- 各パイプライン導出には至らず、活動継続中
- 2例の登録があり、登録症例数は5例
- 治験期間は2027年3月31日まで延長
- 治験施設として大阪大学病院が新たに参加
- AMED創薬支援事業より助成金1億円獲得
- 計画通り、非GLP毒性試験を実施中
- Eurus Therapeutics株式会社と共同研究契約締結
- あすか製薬株式会社と共同研究契約締結
- 計画通り、TOKYO戦略的イノベーション促進事業の完了報告書を提出

開発パイプラインの状況

(PPMX-T004 は、非臨床試験のステージにあるため、探索パイプラインへ移動)

開発コード	標的	対象疾患	創薬研究	非臨床試験	Phase1	Phase2	備考
PPMX-T003	TfR1	真性多血症	導出活動中				
		ANKL ¹⁾	医師主導治験				*
PPMX-T002 (RIT ²⁾)	CDH3	固形がん	治験終了 ³⁾				** 富士フイルム株式会社
			導出活動中 ⁴⁾				

1) アグレッシブ NK細胞白血病 2) 放射性同位体標識抗体 3) RI:⁹⁰Y 4) RI:²²⁵Ac

* AMED 創薬支援推進事業・希少疾病用医薬品指定前実用化支援事業の支援を受けて医師主導治験を実施中

** 当社が創出

富士フイルム株式会社が米国にて進行性固形がん患者さんでの第 I 相試験を実施したが、事業方針の変更により、2022年3月に実施権が返還

導出活動の状況

対応：

- ・自社によるアプローチに加え、今期からは新たにグローバルコンサルタントと契約し、導出活動を強化

PPMX-T003：

- ・欧米およびアジアの製薬企業やバイオファーマ、またベンチャーキャピタルに対し、本剤導出に向けたアプローチを繰り返し実施
- ・本剤に興味を持つ複数の候補企業に情報提供
- ・今後は、真性多血症に加え他の疾患への適応拡大も視野に導出活動を推進

PPMX-T002：

- ・本剤に興味を持つ複数の放射性医薬品開発企業に対し、本剤導出に向けたアプローチを繰り返し実施
- ・今後は、最近、放射性医薬品の開発を強化している候補先を中心に導出活動を推進

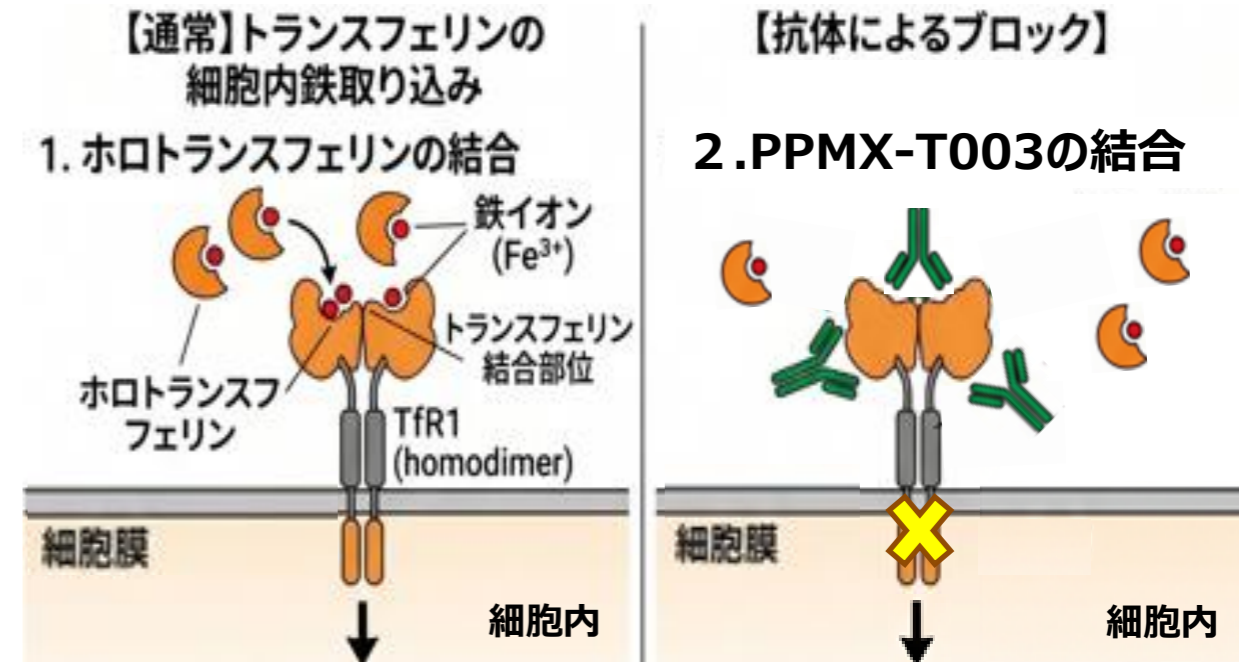
PPMX-T003 : 抗体の特徴と真性多血症領域の進捗状況

抗体の特徴

- ICOS法を取り入れたファージディスプレイ法により取得した完全ヒト抗体
- 標的はトランスフェリン受容体 1 (TfR1)

最新状況

- 第 I 相試験は 2024年6月に終了。現在、論文投稿準備中
- 第 I 相試験に参加した治験責任医師が中心となり臨床研究を実施
- 臨床研究の実施期間は、データ収集の遅れにより 3 ヶ月延長



研究名称：PPMX-T003-CT102試験参加者を対象としたT003の薬力学的効果の推測及び臨床検査値の推移から病態変化の傾向を探索する研究

研究代表医師：関西医科大学附属病院 血液腫瘍内科 主任教授 伊藤 量基先生

実施期間：～2026年6月30日

備考：jRCT * 臨床研究実施計画番号：jRCT1050250129

* jRCT <https://jrct.mhlw.go.jp/>

PPMX-T003 : アグレッシブNK細胞白血病領域の進捗状況

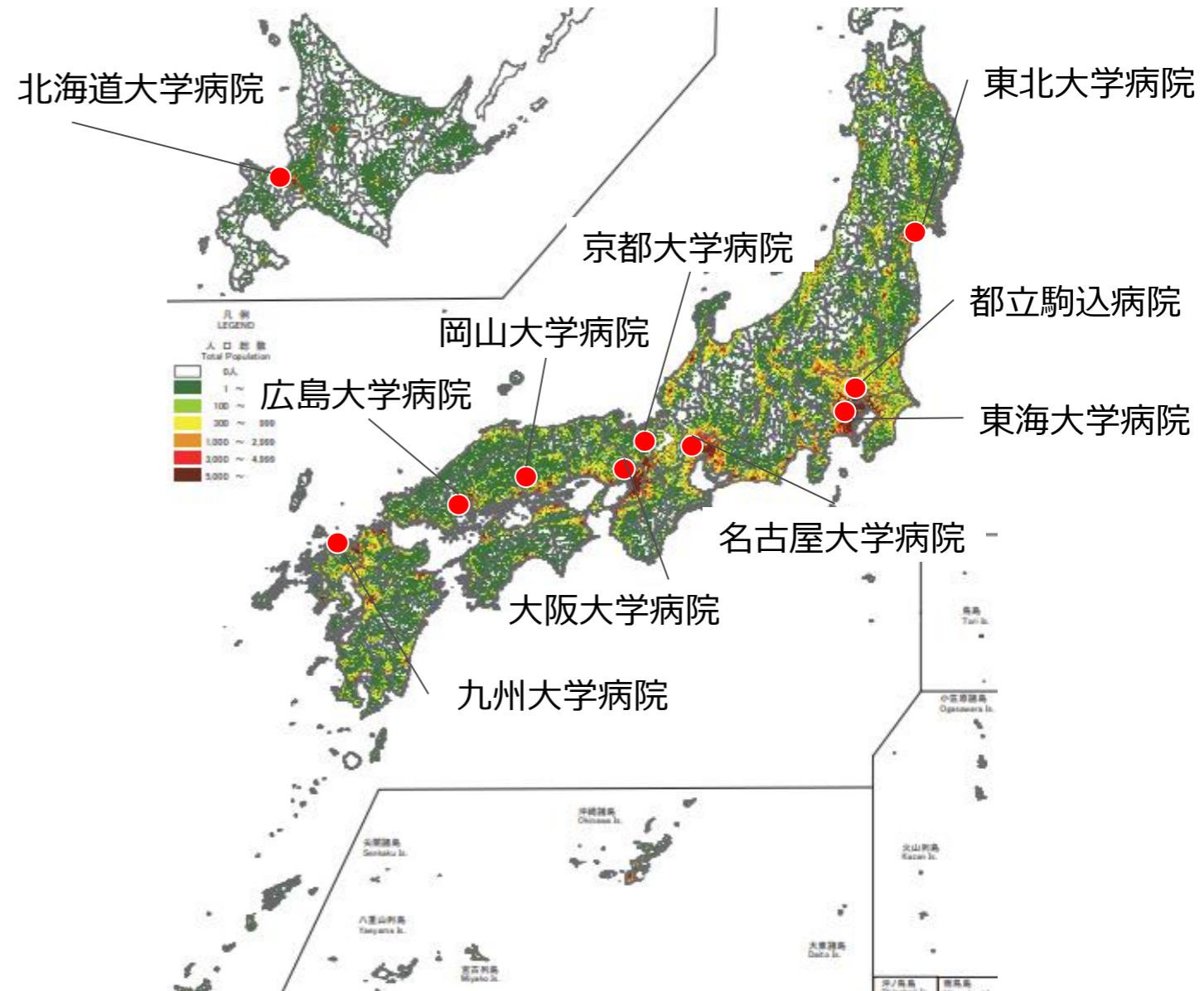
医師主導治験の概要

- 試験デザイン : 非盲検・非対称・用量漸増
- 対象疾患 : アグレッシブNK細胞白血病
- 主要評価項目 : 忍容性及び安全性
- 実施期間 : 2023年4月 ~ 2027年3月
- 治験調整医師 : 広島大学病院 血液内科 安藤 潔 先生
- 治験実施施設 : 全国10医療機関 (右図)
- 備考 : jRCT * 臨床研究実施計画番号 : jRCT2061230008

AMEDの支援

- 令和8年度 創薬支援推進事業・希少疾病用医薬品指定前 実用化支援事業に採択
- 令和8年度の当該治験費用として、助成金1億円を獲得

* jRCT <https://jrct.mhlw.go.jp/>



「令和2年国勢調査に覆する地域メッシュ統計地図」(総務省統計局) <https://www.stat.go.jp/data/mesh/pdf/r2sousu.pdf> を加工して作成

創薬パイプラインの状況

No.	モダリティ	標的	対象疾患	抗体スクリーニング 系構築	抗体取得	抗体最適化	非臨床試験	提携先
1	ADC ¹⁾ (PPMX-T004)	CDH3	固形がん					
2	BsAb ²⁾	非公開	血液がん					中部大学
3	BsAb ²⁾ /ADC ¹⁾	非公開	固形がん					非公開
4	ADC ¹⁾	非公開	固形がん					
5	naked ³⁾	非公開	消化器系疾患					

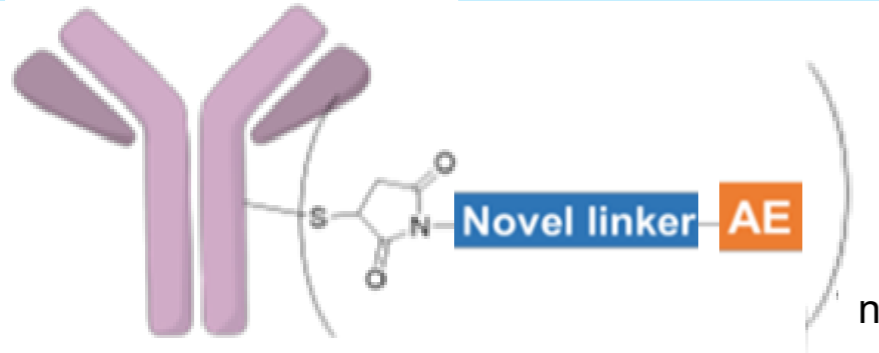
1) 抗体薬物複合体 2) 多重特異性抗体 3) IgG抗体

PPMX-T004 : 進捗状況

特徴と現状

- CDH3を標的とする抗体薬物複合体 (ADC)
- 本剤はCDH3に強く結合した後、がん細胞内に効率よく取り込まれるように設計
- マウスによる実験で高い抗腫瘍効果を確認 (右図)
- 非GLP毒性試験は、2026/9に終了予定

構成

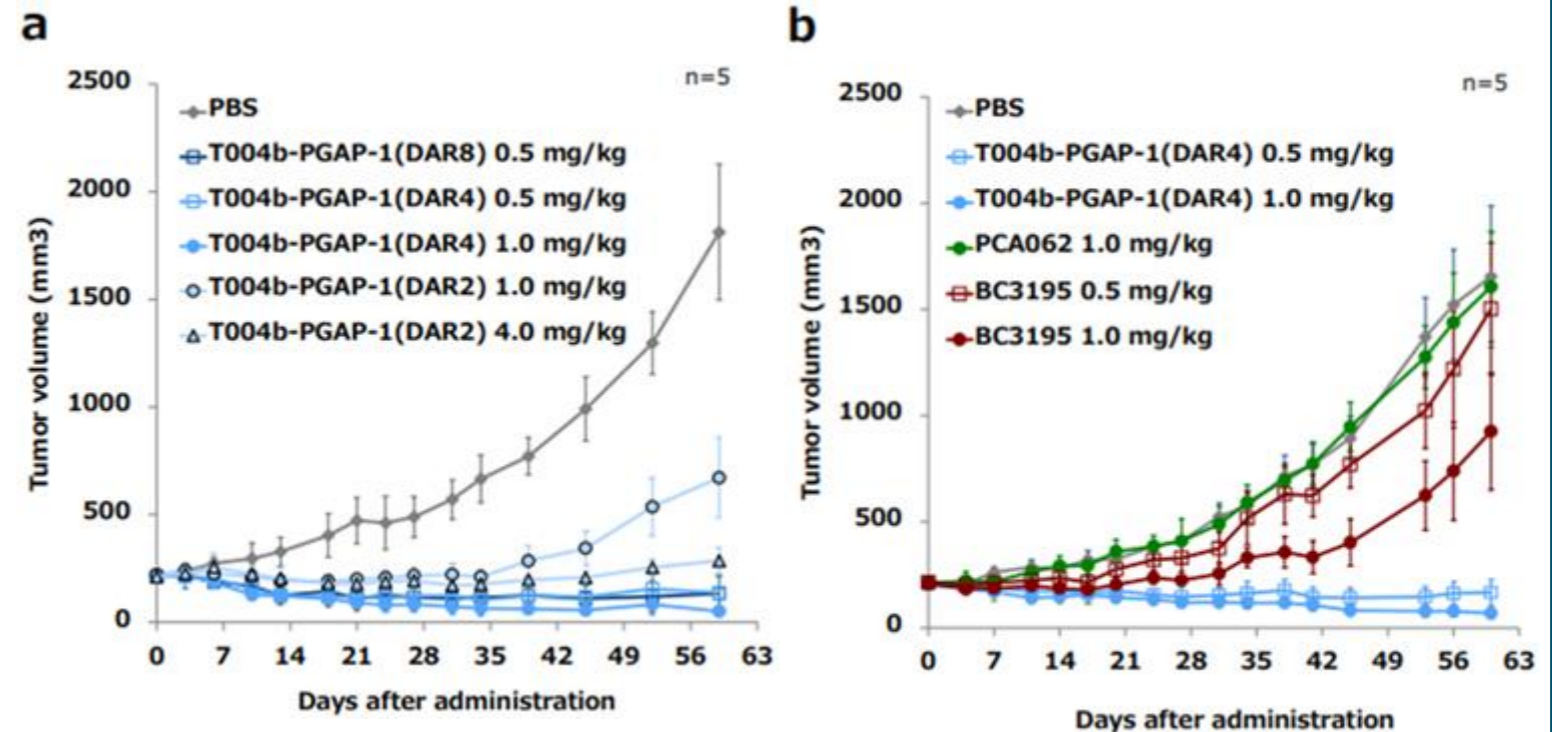


抗体

リンカー

低分子
抗がん剤

PPMX-T004bのDAR*違い (DAR2、DAR4、DAR8) 及び競合との薬効比較の結果



(a) Tumor growth following single dosing at day 0 in BxPC3 xenograft mouse models with different DARs.

(b) Comparison of tumor growth with preceding ADCs.

* Drug Antibody Ratio (抗体1分子あたりの薬物結合数)

抗体研究支援の売上高は、6期連続での増加 ラクダ抗体ライブラリを用いた抗体スクリーニング・作製サービスの提供開始

サービス内容

配列解析

組換抗体生産

VHH抗体研究支援

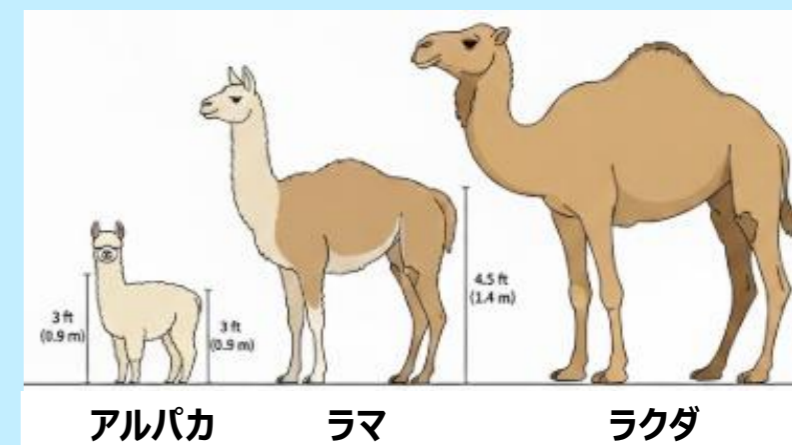
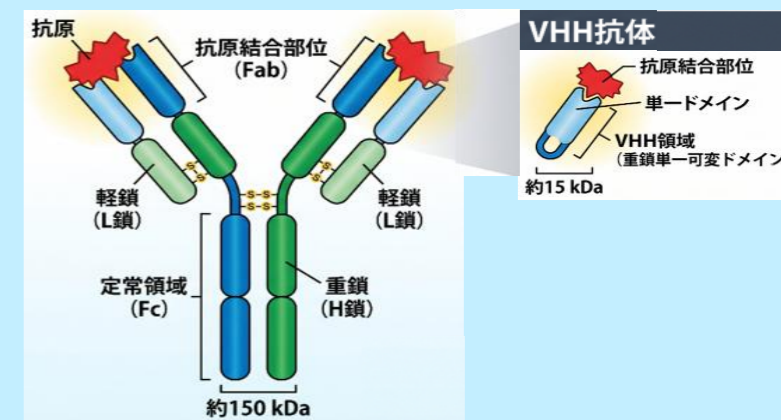
シングルBセルクローニング

ラクダ科単鎖抗体の特徴

- 通常抗体の**1/10**の分子量(15kDa)で生産が容易
- きわめて高い熱安定性
- VHH抗体が多い
 - ラクダ 約70 %
 - ラマ 約45 %
 - アルパカ 約25 %

VHH抗体ライブラリ

- 約20頭のヒトコブラクダから構築した 10^{10} オーダーの多様性
- ナイーブ抗体ライブラリ



抗体・試薬販売

ヒト核内受容体抗体全48種類を始め、90種類以上の製品を展開
2026年3月期は、新たに研究用抗体の3製品が発売を開始

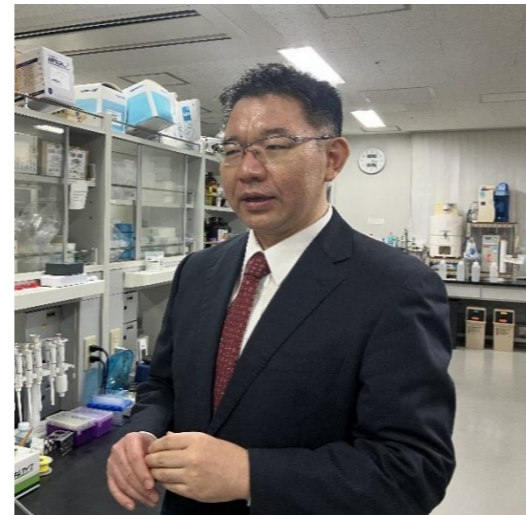
新製品群

抗 GPR87 抗体
(疾患研究用抗体)

抗 Exatecan 抗体
(ADC研究用抗体)

抗 S1PR3 抗体
(疾患研究用抗体)

アカデミアの研究者から高い信頼を得て、実験の精度と成功を確実にサポートする信頼のツールとして活用されています



当社の**PPZ0506抗体**を用いてErβ*の免疫組織化学染色法を樹立された日本医科大学大学院教授石井寛高先生

*エストロゲン受容体ベータ。全身に広く分布し、エストロゲンと結合して機能する受容体。



当社の**抗ADC抗体**を活用された東京薬科大学齊藤直希先生が、「JSSX Best Poster Award (Basic Research)」を受賞

02 2026年3月期：決算概況

2026年3月期：業績

損益計算書

(単位：百万円)

	FY2025/3	FY2026/3
売上高	120	135
売上総利益	104	116
販売管理費	930	861
研究開発費	594	573
その他	335	287
営業利益	△826	△744
経常利益	△829	△678
特別損失	72	37
法人税等	2	1
純利益	△904	△718

抗体研究支援
抗体・試薬販売

PPMX-T003 ANKL治験
基盤技術費用

本社の現状回復費用・設備投資の減損損失

- 売上高：前年同期比約12.6%増
- 研究開発費：PPMX-T003のANKL第I/II相医師主導試験費用、基盤技術費用等

2026年3月期：財務状況

貸借対照表

(単位：百万円)

資産の部		
	2025/3/31	2026/3/31
現金及び預金	1,667	1,515
流動資産合計	1,775	1,608
固定資産	42	14
資産合計	1,818	1,623

負債の部		
	2025/3/31	2026/3/31
流動負債	124	65
固定負債	261	340
負債合計	386	405
純資産合計	1,432	1,217
負債純資産合計	1,818	1,623

- 現預金：新株予約権の行使による株式の発行による収入による増加、研究開発費の支払い等による減少
- 固定負債：PPMX-T003（ANKL 治療薬の開発）のAMED創薬支援事業採択による長期預り金
- 自己資本比率：70.1%

第29回新株予約権の概要

第29回新株予約権	
割当日	2026年1月5日
割当先	マッコーリー・バンク・リミテッド
潜在株式数	3,680,000株（2025年9月30日現在における発行済株式総数14,749,500株に対し24.95%）
発行価額	総額2,980,800円（新株予約権1個あたり81円）
調達予定額	930,380,800円（差引手取概算額）（注）
行使期間	2026年1月6日～2028年1月5日（2年間）
当初行使価額	255円
行使価額の修正	行使請求の効力発生日の直前取引日東証終値の92%に相当する金額に修正
下限行使価額	139円（発行決議日直前取引日（2025年12月16日）の東証終値の50%に相当する金額）

（注）差引手取概算額は、本新株予約権の払込金額の総額に、本新株予約権の行使に際して払い込むべき金額の合計額を合算した金額から、本新株予約権の発行に係る諸費用の概算額を差し引いた金額となります。なお、本新株予約権の行使に際して払い込むべき金額の合計額は、当初行使価額で全ての本新株予約権が行使されたと仮定した場合の金額であります。行使価額が修正又は調整された場合には、調達予定額は増加又は減少します。また、本新株予約権の行使期間内に行使が行われない場合及び当社が取得した本新株予約権を消却した場合には、調達予定額は減少します。

03 2027年3月期：計画

2027年3月期：計画

- 1 導出活動：**
PPMX-T003 / PPMX-T002：導出活動を継続
- 2 臨床開発：**
PPMX-T003：アグレッシブNK細胞白血病の医師主導治験を終了（2027/3）
PMDA相談を実施
- 3 探索研究：**
PPMX-T004：非GLP毒性試験を終了（2026/9）
抗体MCB*の製造に着手（2027/1）
- 4 基盤技術①**
PPMX抗体ライブラリ2：パイプライン化の推進・プラットフォームビジネスとして事業拡大
基盤技術②
高効率シングルBセルプラットフォーム技術：事業化に向けたビジネスモデルの構築

* MCB：マスターセルバンク。製造の起点となる細胞株の凍結保管ロット

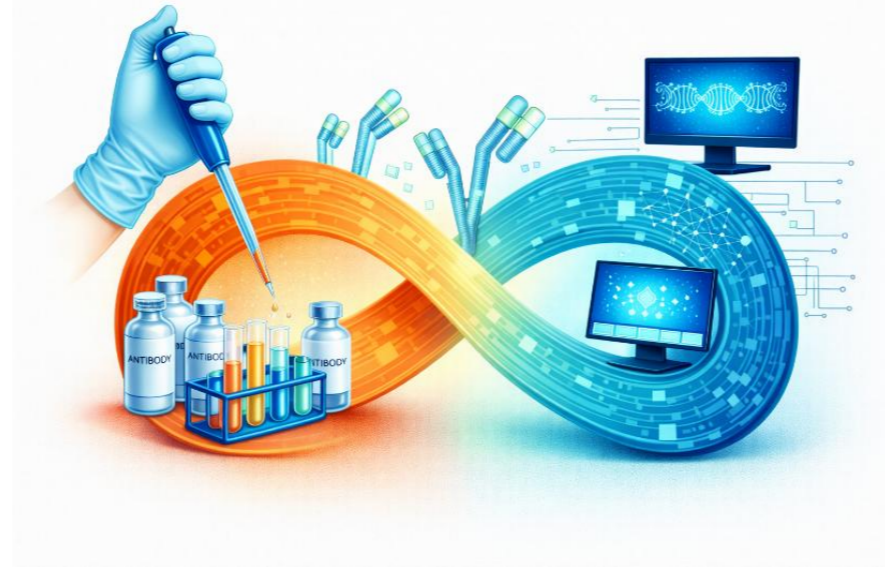
04 今後の成長戦略

事業展開：抗体取得技術とAI創薬の融合による技術の深化

Wet系による戦略

基盤技術

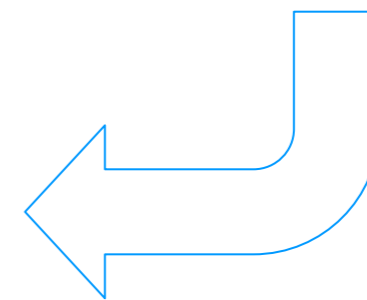
- ・ハイブリドーマ
- ・ファージディスプレイ
- ・シングルBセル



Dry系による強化

萌芽技術開発

- ・抗体を新しく創造
- ・親和性を改善
- ・物理的性質を改善



**抗体取得・抗体最適化を効率化
創薬プロセスを短縮**

創薬プロセス

抗体スクリーニング系
構築

抗体取得

抗体最適化

非臨床試験

事業展開：3つの事業ポートフォリオが織りなすシナジー

創薬

自社基盤技術を用いた画期的な
抗体医薬品の研究開発
(Value Creation)

抗体研究支援

製薬企業や研究機関への技術支援
による、最先端ニーズと知見の吸収
(Data & Insight)



Only One
PPMX

抗体・試薬販売

抗体製品等の販売による、
安定的な収益基盤の構築
(Cash Flow)



【お問合せ:】

Email: ir@ppmx.com

TEL: 03-6264-8224

FAX: 03-3668-7776

<https://www.ppmx.com>

本資料は、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的としたものではありません。投資の最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

本資料には、将来についての予想や見通しが含まれております。これらは現在当社で入手可能な情報に基づいて作成しており、経済や医薬品業界の動向などにより、変動することをご了承ください。

ご案内

IRメール配信のお知らせ

当社では、株主・投資家の皆様向けにIRメール配信を開始いたしました。配信をご希望の方は、下記QRコードより簡単にご登録（無料）いただけます。

決算情報や東京証券取引所への開示リリースのほか、社長メッセージの「ペルセウス通信」などのIR情報が配信されます。



補足 ペルセウスプロテオミクスについて

会社概要



社名

株式会社ペルセウスプロテオミクス（略称：PPMX）

設立

2001年2月

事業内容

- 抗体医薬品の創薬・開発
- 抗体研究支援
- 抗体・試薬販売

証券コード

4882

拠点

本社・ラボ：東京都中央区日本橋箱崎町30-1
名古屋ラボ：愛知県名古屋市千種区千種2-22-8

資本金

500百万円*

従業員

37名*（臨時従業員は含まず）

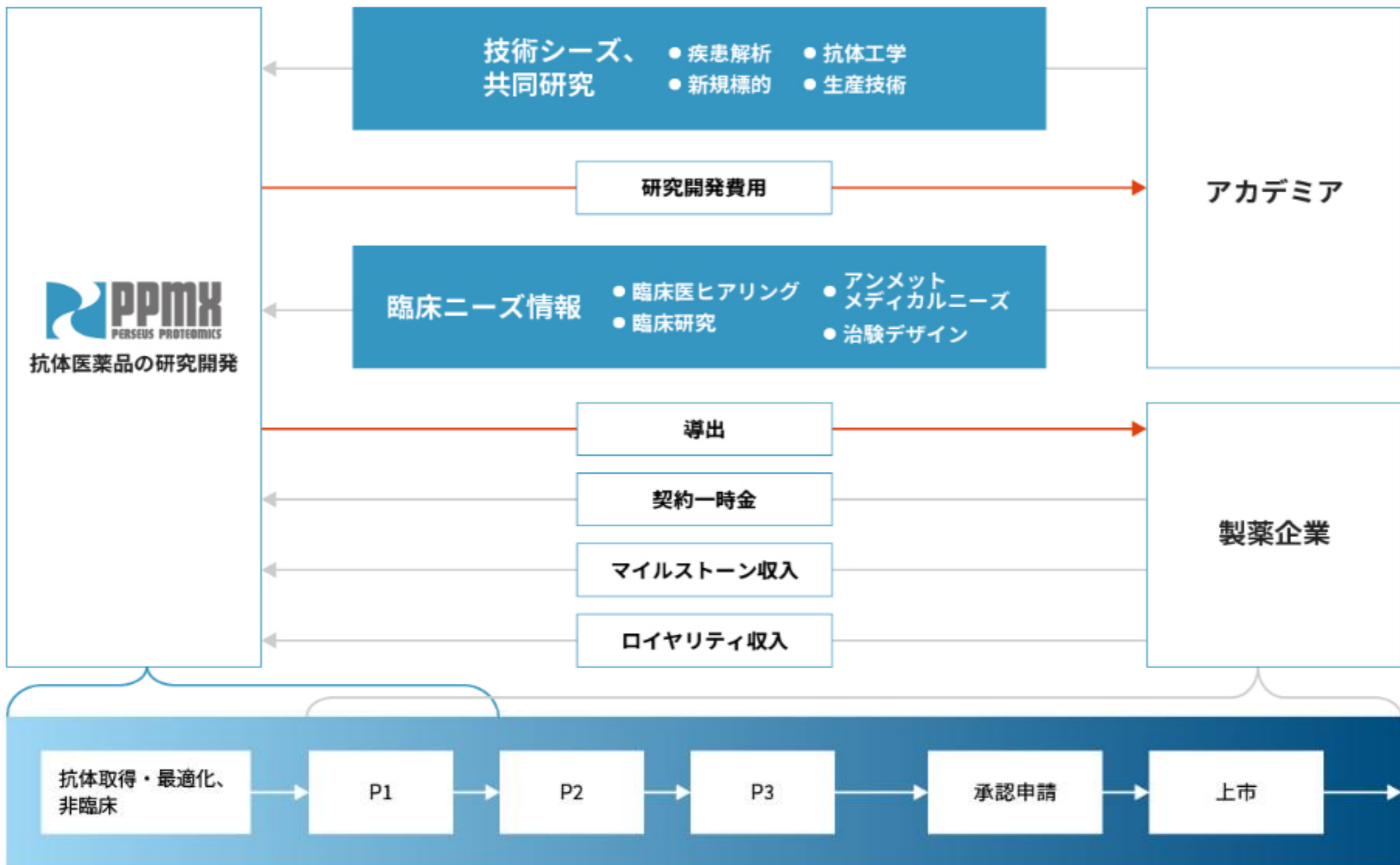
* 2026年3月31日現在



本社入居ビル

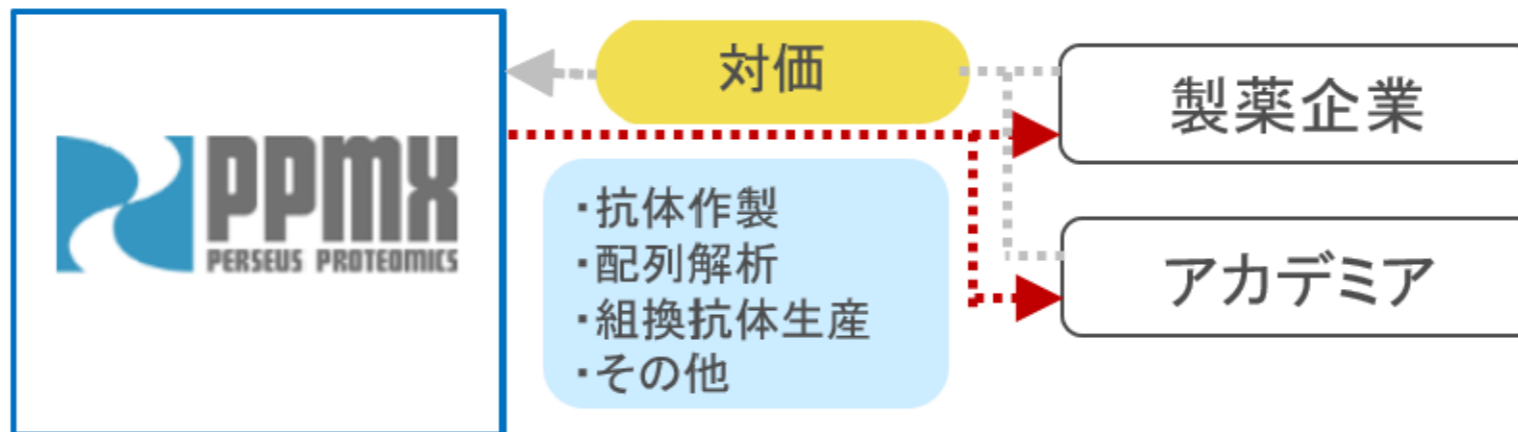
ビジネスモデル

1. 創薬

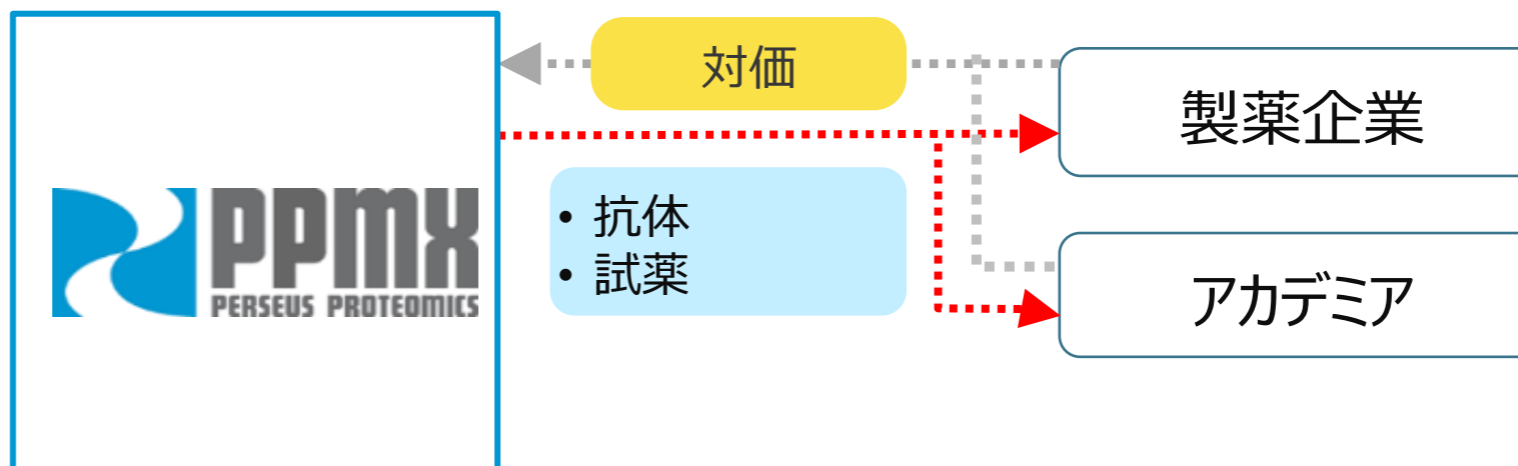


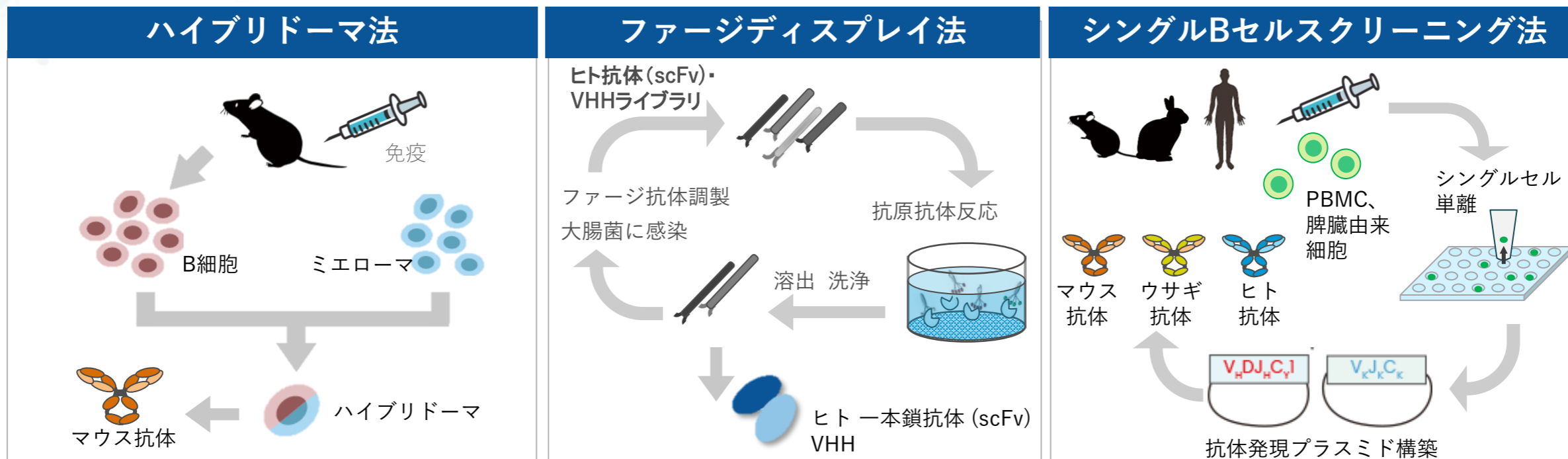
ビジネスモデル

2. 抗体研究支援



3. 抗体・試薬販売





- 特徴**
- 手法が成熟
 - 生体内で親和性が向上
 - 低コスト
 - 複雑な抗原に対する抗体は取得困難
⇒ ADC¹⁾、RIT²⁾、新規標的に活用

- ヒト抗体を取得
- 動物が不要
- 生物毒性を考慮しなくてよい
- ライブラリ作製に熟練が必要
⇒ 多様性を最大化できる技術力

- ヒトや動物の抗体をスピーディに取得
- B細胞の多様性を維持
- 機械は高額
- 工程全体の操作に熟練が必要
⇒ 新たな手法として活用

さまざまな手法を駆使して最適な方法で抗体を取得

1) ADC：抗体薬物複合体 2) RIT：放射性同位体抗体